

ラグビーワールドカップ大分開催に向けた提言

平成29年1月

大分県議会

ラグビーワールドカップは、オリンピック、サッカーワールドカップと並ぶ世界3大スポーツイベントのひとつであり、世界的には圧倒的に認知度が高く、人気のある大会である。また、ラグビー自体が特定の地域や国だけで人気のある競技ではなく、世界中の人々が強い関心を持ち、多くの熱烈なファンが国境を越えて観戦に訪れるスポーツである。2015年に開催されたイングランド大会では、海外から約40万6千人もの観戦者が、1か月あまりの大会期間中にイギリスを訪れ、平均滞在日数は14日間となっている。このように、外国人観戦者は長期滞在し、開催都市から開催都市へ移動するだけでなく、その周辺都市での観光や地域での文化交流を楽しむ傾向がある。

こうしたことから、ラグビーワールドカップ2019日本大会は、大分県の国際的な知名度を大きく高め、これまでのアジアからの来訪客に加え、欧米を中心に新たなインバウンドの層を取り込む絶好のチャンスであり、大きな経済波及効果が期待できる。日本政策投資銀行によると、九州における日本大会の経済効果は350億円（9試合を想定）に上ると試算しており、外国人観光客がリピーターとなれば、経済効果はより大きくなる。

さらに、本県開催を成功に導くには、本県スポーツの振興はもとより、地域の活性化が図られることが重要であり、①出場選手が最高のパフォーマンスを発揮できる環境を整備すること、②最高のパフォーマンスを見た観客が熱狂すること、③県民にラグビー文化が根付くこと、④国内外の観戦者が本県の魅力を知り、大会後も再び大分を訪れたいと思うようになること、が求められる。また、大分開催が最終目標ではなく、翌年の東京オリンピック・パラリンピックまで見据え、スポーツ振興のみならず、観光振興や地域の活性化につなげていく必要がある。そのためには、試合やキャンプの実施に直接携わる自治体や関係者のみならず、開催地以外の自治体等を巻き込むとともに、県民総参加で開催を盛り上げることは言うまでもなく、九州全体でしっかりとスクラムを組み、取り組んでいくことが重要である。こうした取組によって、大会開催のレガシーとして、県民にラグビー文化が根付くとともに、活発な国際交流、観光振興などの地域活性化が図られることが期待される。

ラグビーワールドカップ大分開催協議会では、平成28年3月25日の設置以降、県執行部からの取組状況の聴取、日本代表対スコットランド代表戦の開催状況等の現場調査、九州内の開催県である福岡県・熊本県の取組状況や開催会場の調査等を行ってきた。

これらの調査結果を踏まえ、ラグビーワールドカップ2019日本大会における大分開催の成功に向け、「1 官民一体による環境整備と機運の醸成」、「2 受入環境の整備と九州広域観光の推進」及び「3 ラグビーワールドカップ2019を活用したまちづくり（地域活性化）」という3つの観点から、次のとおり提言する。

1 官民一体による環境整備と機運の醸成

(1) ハード面・ソフト面の整備

- ①世界中から日本にやってくる、世界最高峰のレベルの選手たちが最高のパフォーマンスを発揮し、素晴らしい試合が展開されるよう、公益財団法人ラグビーワールドカップ2019組織委員会とも十分連携し、試合会場のプレー環境を整えるよう努めること。また、地元関係団体等と連携し、会場運営に必要なスタッフの育成・確保に取り組むこと。
- ②ファンゾーンについては、アクセスや広さ等を十分に勘案して設置場所を選定するとともに、大分の自然、文化等の魅力をしっかり表現できるよう、十分に内容を検討すること。
- ③試合会場やファンゾーンへのスムーズな観客輸送を行うため、周辺住民の理解を得ながら、警察、交通事業者等関係機関と連携し、交通規制の実施も含め、適切な輸送計画を策定すること。
- ④県外からの観客等のアクセスを向上させるため、中九州横断道路の整備進度を上げること。また、熊本地震により被災した国道57号及びJR豊肥本線について、関係機関に早期復旧を働きかけること。
- ⑤キャンプ地の誘致については、様々な波及効果が期待できることから、市町村と連携し、積極的に誘致活動を行うこと。
- ⑥テロの未然防止と災害等緊急事態の発生に備えた対策に十分配慮し、安全安心の確保のための各種対策を講ずること。

(2) おもてなしの充実

- ①外国人との文化・慣習の違いを理解した上での「おもてなし」を実施するため、外国人観光客がどのようなことを欲しているかについてのニーズ調査を実施すること。
- ②心のこもった接客により、観光客が本県に対して良い印象を持ち、大会以降もリピーターになってもらえるよう、関係機関の協力を得て、ホテルスタッフ、タクシードライバー等の接客業従事者のレベルを向上させる取組を実施すること。
- ③早期からボランティアの確保及び育成に努めるとともに、外国人留学生が多数いるという利点を活かし、外国人ガイド等としての活用に取り組むこと。
- ④障がいのある人が不自由なく試合を観戦し、観光を楽しみ、様々な国の観光客との交流ができるよう、移動環境や観戦環境のバリアフリー化に配慮すること。

(3) 県民意識の醸成

- ①大会への県民の関心を高めるため、「One Rugby One Oita（ラグビーを通じて大分県民の心を一つに）」を合言葉に、「One Rugby One Oita大作戦」の取組を積極的に推進するとともに、早い時期からメディアを通じた広報や、シティドレッシング（街中装飾）、老若男女問わず興味を惹くイベントの開催、さらには日本代表戦の誘致等に積極的に取り組むこと。また、同時に本県の経済波及効果を明確にし、周知することにより、県民の積極性を引き出すこと。
- ②教育機関と連携し、県下の児童・生徒・学生に対するタグラグビーの実施等により、ラグビーの普及・啓発を更に充実させること。
- ③本県の豊かな環境を守り、将来の世代に継承するための県民運動である「おおい たうつくし作戦」を、ラグビーワールドカップ2019のおもてなしの機運醸成に向けた取組として一層推進し、広く県民に浸透させること。

(4) 庁内推進体制等の強化

- ①人員配置の最適化や責任領域と権限範囲の明確化等を行うことにより、早期に組織体制の充実強化を図ること。また横断的組織連携体制の構築に努めること。
- ②ラグビーの競技人口を増やすためには、受け皿となるクラブ等の増加や指導者の育成が欠かせないことから、競技団体等と連携し、指導者の育成に計画的に取り組むこと。
- ③大会運営に携わる県ラグビー協会に対して、円滑な大会運営ができるよう、運営ノウハウの蓄積や職員の資質向上に係る取組への支援を行うこと。

2 受入環境の整備と九州広域観光の推進

(1) 受入環境の整備

- ①長期滞在に対応するためのホテル等宿泊施設の充実に関係機関と連携して努めること。宿泊施設が開催都市のみで不足する場合は、周辺市町村への宿泊をあっせんするなど、宿泊者の県内への取り込みに努めること。
- ②外国人対応観光案内所の充実に更に努めること。
- ③外国人に分かりやすい観光案内板や掲示板の設置を更に推進すること。
- ④外国人旅行者の利便性の向上や県内の観光・交通情報の発信力強化などを主な目的とした多言語表記のホームページやSNSの開設、各種パンフレットの作成等により、情報発信や情報提供を更に充実させること。
- ⑤無料公衆無線LAN「おんせんおおいたWi-Fi」の更なる利用範囲拡大に努

めること。また、W i e F i未整備エリアについては、公共機関、民間事業者に整備を働きかけるなど、インターネット環境の整備に努めること。

⑥免税店や海外カード対応可能店の拡大等に向け関係機関に働きかけること。

⑦クレジットカード対応A T M及び両替機の設置を関係機関に働きかけること。

(2) 広域観光の推進

①地域の特色ある食、美しい自然や歴史的伝統的景観、心のこもったおもてなし等で観戦客をお迎えするとともに、開催都市だけでなく、その周辺都市や県境を越えた各都市の魅力を堪能できるような周遊ルートを提案し、広域観光の推進に努めること。

②宿泊クーポンの創設等により、福岡県、熊本県、大分県だけでなく、九州各県が一体となった観光プロモーションの展開を強化すること。

③アジア市場の更なる開拓と、アジア圏以外のヨーロッパ・アメリカ・オセアニア市場の開拓に繋がるような情報発信を積極的に行うこと。

(3) 交通網の充実

①外国人観光客の九州へのアクセス向上を図るため、欧米からの九州直行便の誘致や、成田空港及び関西空港からの乗継便の増加などを関係機関に働きかけること。

②J Rやバスによる九州周遊パス、高速道路ドライブパス等の充実を関係機関に働きかけること。

(4) 広域観光推進体制の充実

①九州では、今後、ラグビーワールドカップ以外にも世界大会規模のイベントの開催が予定されており、国内外の観光客が、開催県のみならず、周辺地域及び九州内を周遊する機会が増加していくことから、一般社団法人九州観光推進機構を核とし、九州各県が連携して、県外及び国外への情報発信やプロモーションを実施するための体制を充実させること。

3 ラグビーワールドカップ2019を活用したまちづくり（地域活性化）

①大会のために来県した国内外の観光客がリピーターとなるよう、地元と観光客との交流の機会を設ける取組を実施すること。

②温泉や歴史文化等、魅力的な地域資源を磨き上げ、県内周遊型観光プログラムを開発すること。

- ③大分県産品を使ったメニューの開発等による「食」での地域PRに努めること。
- ④グリーンツーリズム等の宿泊体験による地域への誘客を更に促進すること。
- ⑤地域文化の紹介や体験をサポートするボランティアガイド等の育成を推進すること。
- ⑥ラグビーワールドカップ開催後も、引き続きラグビーの各種試合（イベント）を誘致し、地域交流を推進する等、継続的な取組を実施すること。
- ⑦県内の市町村がキャンプ地となった場合、代表チームと地域住民との交流を継続的に発展させる取組を実施すること。また、キャンプ地以外の市町村においても、大会参加国と地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図る「ホストタウン」の取組を推進するよう、県として必要な支援を行うこと。

平成29年1月10日

大分県知事 広瀬 勝貞 殿

大分県議会議長 田中 利明